

## 基準3 教員及び教育支援者等

## (1) 観点ごとの分析

観点3-1-① 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校一般科目では、8項目の学習・教育目標を達成すべく、教育課程表(資料3-1-①-1)に配置された各科目を担当している。一般科目担当専任教員は、高等専門学校設置基準を満たす19名により構成されている。その担当教科の内訳は国語2、社会2、数学6、理科2、英語5、保健体育2となっており、それぞれの教員の専門分野を考慮した適切な配置を行っている。これに経験や専門分野の見識を考慮して選ばれた19名の非常勤講師を加えて、一般科目の教育に当たっている(資料3-1-①-2)。

各教員は担当時間数にも偏りなく、それぞれの専門分野に適合するようにバランスよく配置している。また外国人の専任教員が実践的な英会話能力獲得のための科目を担当しており、学習・教育目標である「国際性と指導力」「コミュニケーション能力」獲得のための効果的な達成も意図した担当配置を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校設置基準によると、本校は第6条2四に当てはまり、定められた専任の一般科目担当教員18名を配置する必要がある。本校は19名の専任教員により構成されているので、これを満たしつつ、教育課程表に配当された科目構成と比してバランスのとれた専門分野での配置をしている。専任教員にあっては専門分野や担当時間数の均衡化にも配慮し、一般科目の学習・教育目標達成のために適切な担当配置を行っている。

以上のことから、本校一般科目担当教員は、教育の目的を達成するために適切に配置されている。

資料3-1-①-1

教育課程表（一般科目）

別表 第1

一般科目（各学科共通）

（平成23年度第1～3学年に係る教育課程）

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語 I	2	2					
	国語 II	2		2				
	国語 III	2			2			
	国語 IV	2				2		
	地理	2	2					
	政治	2		2				
	世界史	2		2				
	日本史	2			2			
	数学 A	4	4					
	数学 B	2	2					
	微積分 I	4		4				
	微積分 II	2			2			微積分II:建築学科は4単位 解析学:建築学科はなし
	解析学 I	2				2		
	代数学 I	2		2				
	代数学 II	2			2			
	物理 I	2	2					
	物理 II	2		2				
	物理 III	2			2			
	生物 I	2	2					
	化学 I	2		2				
	化学 II	2			2			
	保健体育 I	2	2					
	保健体育 II	2		2				
	保健体育 III	2			2			
	保健体育 IV	2				2		
	保健体育 V	1					1	
	英語 I A	2	2					
英語 I B	2	2						
英語 II A	2		2					
英語 II B	2		2					
英語 III A	2			2				
英語 III B	2			2				
英語 IV A	1				1			
英語 IV B	1				1			
英語 IV C	1				1			
英語 II A	1				1			
英語 V A	1					1		
英語 V B	1					1		
標準修得科目数		38	9	10	9	7	3	
標準修得単位数計		73	20	22	18	10	3	
選択科目	選択A	音楽	2	2				1科目を修得
		美術	2	2				
		中国語	2				2	1科目を修得
	ドイツ語	2				2		
	フランス語	2				2	1科目を修得(学修単位)	
	国語表現概論	2				2		
	法学概論	2				2		
	哲学概論	2				2	1科目以上を修得	
	数学概論	1				1		
	化学	1				1		
科学技術と環境	1				1			
選択B	資格	1				1	※5年選択科目は、上記を含めて4単位以上を修得	
	スポーツ科学実習	1				1		
	TOEIC I	1				1		
資格	2				2			
開設単位数計		23	4			6	13	
標準修得科目数		5以上	1			1	3以上	
標準修得単位数計		8以上	2			2	4以上	
開設単位数合計		96	24	22	18	16	16	
標準修得科目数合計		43以上	10	10	9	8	6以上	
標準修得単位数合計		81以上	22	22	18	12	7以上	

(出典 学生生活のてびき P.80)

平成 22 年度授業科目担当教員一覧 (一般科目)

Table of faculty assignments for general subjects. Columns include: 勤務形態 (Employment Status), 氏名 (Name), 専任 (Regular), 非常勤 (Part-time), 博士号取得者 (PhD holder), 開講年次 (Year), 学科 (Subject), 必修/選択 (Required/Elective), 授業科目名 (Subject Name), 開講期 (Semester), 単位数 (Credits), and 15 columns of teaching assignments marked with O (Yes) or / (No).

(出典 平成 22 年度教育課程表及びシラバスより作成)

**観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

各専門学科においては、高等専門学校設置基準に定められた教員数の要件を満たしている。また、8項目の学習・教育目標を達成するために、教育課程(資料3-1-②-1)に設定された科目に対して、教員の専門分野に適合した科目を担当することとなっている(資料3-1-②-2)。

機械工学科と電気情報工学科においては、他の2学科と比べ、教員の定員数がそれぞれ1名と2名多いが、これは機械工学科教員が、全学科、4年開講の専門基礎科目である応用数学を担当し、電気情報工学科については、4年次以降コース制を実施しているためである。

専門学科では、より高度で創造的な教育を実現するために、ほとんどの教員が博士号を取得しており、常勤教員における取得率は96%である(資料3-1-②-3)。また、より実践的で多様な教育をはかるために民間企業等からの転任教員が40%と半数近くいる。

学習・教育目標を達成するために、より広い分野に科目展開を行っており、このため、専任教員で対応できない科目については、非常勤講師でカバーしている。

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校設置基準第6条3によると、専門科目を担当する専任教員が34名必要であるのに対し、本校では47名で構成しており、基準を満たしている。加えて、専門科目担当教員のうち専任の教授及び准教授の配置においても、同第8条によると、33名の配置が定められているが、本校では35名で構成しており、基準を満たしている。担当科目教員は、専門分野を考慮して適切に配されている。また、担当科目数も偏ることなくバランス良く配置されている。

以上のことから、本校の教育目的を達成するために必要な各学科の専門科目の担当教員は適切に配置されている。

資料 3 - 1 - ② - 1

教育課程表 (機械工学科専門科目)

別表第 2

専門科目 機械工学科

(平成23年度第1~2学年に係る教育課程)

区分	授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	解 析 演 習 I	1		1				
	応 用 数 学	4				4		
	応 用 物 理	1				1		
	プログラミング基礎	1	1					
	プログラミング応用 I	2			2			
	プログラミング応用 II	2				2		
	設 計 製 図 I	3						
	設 計 製 図 II	2		2				
	設 計 製 図 III	4			4			
	設 計 製 図 IV	4				4		
	設 計 製 図 V	4					4	
	工 作 実 習 I	2	2					
	工 作 実 習 II	2		2				
	工 作 実 習 III	2			2			
	工 作 実 習 IV	2				2		
	機 械 工 学 実 習 I	2	2					
	機 械 工 学 実 習 II	2		2				
	機 械 工 学 実 験 I	2			2			
	機 械 工 学 実 験 II	2				2		
	機 械 工 学 実 験 III	2					2	
	機 械 加 工 学 I	1	1					
	機 械 加 工 学 II	1		1				
	機 械 加 工 学 III	1		1				
	機 構 学	1			1			
	工 業 力 学	2			2			
	材 料 学	2			2			
	材 料 学 II	1				1		
	設 計 工 学 I	1			1			
	設 計 工 学 II	1				1		
	材 料 力 学 I	2			2			
材 料 力 学 II	2				2			
熱 力 学	2				2			
流 体 力 学	2				2			
機 械 力 学	2				2			
力 学 演 習	1				1			
電 気 電 子 工 学 I	1				1			
機 械 工 学 ゼ ミ ナ ー ル	1				1			
自 動 制 御	2					2		
卒 業 研 究	6					6		
標 準 修 得 科 目 数	39	5	6	9	15	4		
標 準 修 得 単 位 計	78	9	9	18	28	14		
選 択 科 目	選 択 A							1単位以上を修得
	經 営 工 学	1					1	
	機 械 環 境 工 学	1					1	
	選 択 B							4・5年で 合わせて 8単位 以上を 修得
	機 械 イン タ ー ナ ー シ ッ プ	1				1		
	解 析 演 習 II	1					1	
	熱 統 計 力 学	1					1	
	材 料 力 学 III	1					1	
	材 料 力 学 II	1					1	
	電 気 電 子 工 学	1					1	
	伝 熱 工 学	1					1	
	生 産 工 学	1					1	
	ロ ボ ッ ト 工 学	1					1	
	破 壊 力 学	1					1	
計 測 工 学	1					1		
工 学 解 析 理	1					1		
資 格 熱 管	2					2		
開 設 単 位 計	16				1	15		
標 準 修 得 科 目 数	7 以上				0 以上	6 以上		
標 準 修 得 単 位 計	8 以上				0 以上	7 以上		
開 設 単 位 合 計	94	9	9	18	29	29	修得単位数	
標 準 修 得 科 目 数 合 計	46 以上	5	6	9	15 以上	10 以上	専門科目82単位以上	
標 準 修 得 単 位 合 計	86 以上	9	9	18	28 以上	21 以上	一般科目75単位以上	
標 準 修 得 科 目 数 総 計	89 以上	15	16	18	23 以上	16 以上	合 計 167単位以上	
標 準 修 得 単 位 総 計	167 以上	31	31	36	40 以上	28 以上		

(出典 学生生活のてびき P.81)

資料3-1-②-1 (続き)

教育課程表 (電気情報工学科電気電子工学コース専門科目)

専門科目 電気情報工学科(電気電子工学コース) (平成23年度第1～5学年に係る教育課程)

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考		
			1年	2年	3年	4年	5年			
共通必修科目	電気回路Ⅰ	2	2							
	プログラミングⅠ	2	2							
	コンピュータグラフィクス	2	2							
	電気情報工学実験基礎	2	2							
	電気回路Ⅱ	3		3						
	プログラミングⅡ	2		2						
	電気電子計測Ⅰ	2		2						
	マイクロコンピュータ	2		2						
	電気情報工学実験Ⅰ	2		2						
	電気磁気学Ⅰ	2			2					
	電子工学	2			2					
	回路論	2			2					
	電気電子工学概論	2			2					
	情報工学概論	2			2					
	デジタル電子回路	2			2					
	電気情報工学実験Ⅱ	4			4					
	応用物理学Ⅰ	1				1				
	応用物理学Ⅱ	1				1				
	過渡現象論	1				1				
	電子回路学	2				2				
	制御工学	2				2				
	課題研究	1				1				
	知的財産権	1					1			
卒業研究	9					9				
コース別科目	応用数学	4				4				
	電気磁気学Ⅱ	2				2				
	固体物性	2				2				
	電気電子計測Ⅱ	2				2				
	電気電子工学実験Ⅰ	4				4				
	パワーエレクトロニクス	1					1			
	電子物性工学	1					1			
電気電子工学実験Ⅱ	2					2				
標準修得科目数		32	4	5	7	11	5			
標準修得単位数計		71	8	11	16	22	14			
選択科目	選択A	電気電子材料	2				2	4年で2単位以上を修得		
		計算機アーキテクチャ	2				2			
	選択B	インターンシップA	1				1		4・5年で合わせて15単位以上を修得	
		インターンシップB	2				2			
		信号処理	1							1
		離散数学Ⅰ	1							1
		確率・統計Ⅰ	1							1
		離散数学Ⅱ	1							1
		確率・統計Ⅱ	1							1
		通信工学Ⅰ	1							1
		通信工学Ⅱ	1							1
		情報ネットワーク	1							1
		デジタル制御	1							1
		エネルギー変換工学	1							1
		エネルギー伝送工学	1							1
		電子応用	1							1
		電子回路設計	1							1
プロダクトデザイン	1					1				
学修A	画像工学	2					2			
	工業外国語	1					1			
資格	電気電子資格Ⅰ	1					1			
	資格電気電子資格Ⅱ	1					1			
学修A	コンピュータシミュレーション	2					2			
開設単位数計		28				7	21			
標準修得科目数		10以上				1以上	7以上			
標準修得単位数計		15以上				2以上	9以上			
開設単位数合計		99	8	11	16	29	35	修得単位数		
標準修得科目数合計		42以上	4	5	7	12以上	12以上	専門科目82単位以上		
標準修得単位数合計		86以上	8	11	16	24以上	23以上	一般科目75単位以上		
標準修得科目数総計		85以上	14	15	16	20以上	18以上	合計167単位以上		
標準修得単位数総計		167以上	30	33	34	36以上	30以上			

(出典 学生生活のてびき P.82)

資料 3-1-②-1 (続き)

教育課程表 (電気情報工学科情報工学コース専門科目)

専門科目 電気情報工学科(情報工学コース) (平成23年度第1～5学年に係る教育課程)

区分	授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
共通 必修 科目	電気回路Ⅰ	2	2						
	プログラミングⅠ	2	2						
	コンピュータグラフィクス	2	2						
	電気情報工学実験基礎	2	2						
	電気回路Ⅱ	3		3					
	プログラミングⅡ	2		2					
	電気電子計測Ⅰ	2		2					
	マイクロコンピュータ	2		2					
	電気情報工学実験Ⅰ	2		2					
	電気磁気学Ⅰ	2			2				
	電子工学	2			2				
	回路	2			2				
	電気電子工学概論	2			2				
	情報工学概論	2			2				
	デジタル電子回路	2			2				
	電気情報工学実験Ⅱ	4			4				
	応用物理学Ⅰ	1				1			
	応用物理学Ⅱ	1				1			
	過渡現象	1				1			
	電子回路工学	2				2			
	制御工学	2				2			
	課題研究	1				1			
	知的財産権	1					1		
	卒業研究	9					9		
	必修 科目	離散数学	2				2		
		確率・統計	2				2		
計算機アーキテクチャ		2				2			
プログラミングⅢ		2				2			
オペレーティングシステム		1				1			
データ構造とアルゴリズム		2				2			
情報工学実験Ⅰ		4				4			
情報理論Ⅰ		1					1		
信号処理		1					1		
コンパイル		1					1		
ソフトウェア工学	1					1			
情報工学実験Ⅱ	2					2			
標準修得科目数	36	4	5	7	13	7			
標準修得単位数	74	8	11	16	23	16			
選 択 科 目	電気磁気学Ⅱ	2				2		4年で2単位以上を修得	
	電気電子計測Ⅱ	2				2			
	インターンシップA	1				1		4・5年で合わせて12単位以上を修得	
	インターンシップB	2				2			
	応用数学Ⅰ	2					2		
	応用数学Ⅱ	2					2		
	通信工学Ⅰ	1					1		
	通信工学Ⅱ	1					1		
	情報理論Ⅱ	1					1		
	情報ネットワーク	1					1		
	デジタル制御	1					1		
	電子応用	1					1		
	ヒューマンインターフェイス	1					1		
	データベース	1					1		
人工知能	2					2			
プロダクトデザイン	1					1			
画像工学	2					2			
工業外語Ⅰ	1					1			
資格情報資格Ⅰ	1					1			
資格情報資格Ⅱ	1					1			
コンピュータシミュレーション	2					2			
開設単位数計	29				7	22			
標準修得科目数	6以上				1以上	3以上			
標準修得単位数	12以上				2以上	6以上			
開設単位数合計	103	8	11	16	30	38	修得単位数		
標準修得科目数合計	42以上	4	5	7	14以上	10以上	専門科目82単位以上		
標準修得単位数合計	86以上	8	11	16	25以上	22以上	一般科目75単位以上		
標準修得科目数総計	85以上	14	15	16	22以上	16以上	合計167単位以上		
標準修得単位数総計	167以上	30	33	34	37以上	29以上			

(出典 学生生活のてびき P. 83)

資料3-1-②-1 (続き)

教育課程表 (都市システム工学科専門科目)

専門科目 都市システム工学科 (平成23年度第1～5学年に係る教育課程)

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	応用数学Ⅰ	2				2			
	応用微分方程式論	2				2			
	物理学概論	2				2			
	コンピュータ基礎	2	2						
	コンピュータ設計	2			2				
	情報処理解Ⅰ	2		2					
	情報処理解Ⅱ	1				1			
	数学演習Ⅰ	1		1					
	測量学Ⅰ	2	2						
	測量学Ⅱ	2		2					
	工業英語基礎	2					2		
	建築図解	1	1						
	建築図解	2		2					
	構造力学Ⅰ	2			2				
	構造力学Ⅱ	2				2			
	構造力学Ⅲ	1					1		
	水理学Ⅰ	2			2				
	水理学Ⅱ	2				2			
	地盤工学Ⅰ	2			2				
	地盤工学Ⅱ	2				2			
	地盤工学Ⅲ	2					2		
	コンクリート構造Ⅰ	2				2			
	コンクリート構造Ⅱ	1					1		
	衛生工学	2				2			
	計画学Ⅰ	1					1		
	工学基礎Ⅰ	1	1						
	工学基礎Ⅱ	1			1				
環境生態学Ⅰ	2			2					
環境生態学Ⅱ	2			2					
施工管理演習Ⅰ	2					1			
工学設計Ⅰ	1						2		
測量実習Ⅰ	4	4							
測量実習Ⅱ	2		2						
工学実習Ⅰ	4			4					
工学実習Ⅱ	4				4				
工学実習Ⅲ	2						2		
卒業研究	6						6		
標準修得科目数		36	5	5	8	12	6		
標準修得単位数		74	10	9	17	23	15		
選択科目	選択A	1					1	1単位以上を修得	
	施工管理Ⅱ	1					1		
	公共経済学	1					1		
	資格	測量学Ⅲ	1					1	4・5年で12単位以上を修得
		測量学Ⅳ	1					1	
		数値解析演習Ⅰ	1					1	
		構造設計Ⅰ	1					1	
		都市計画Ⅰ	1					1	
		コンクリート構造Ⅱ	1					1	
		建設法規Ⅰ	1					1	
		交通工学Ⅰ	1					1	
		河川工学Ⅰ	1					1	
		海岸工学Ⅰ	1					1	
防災工學	1					1			
建設ロボット	1					1			
都市システムインターンシップ	1				1				
開設単位数計		16				1	15		
標準修得科目数		12以上				0以上	11以上		
標準修得単位数		12以上				0以上	11以上		
開設単位数合計		90	10	9	17	24	30	修得単位数	
標準修得科目数合計		48以上	5	5	8	12以上	17以上	専門科目82単位以上	
標準修得単位数合計		86以上	10	9	17	23以上	26以上	一般科目75単位以上	
標準修得科目数総計		91以上	15	15	17	20以上	23以上	合計167単位以上	
標準修得単位数総計		167以上	32	31	35	35以上	33以上		

(出典 学生生活のてびき P.84)



資料3-1-②-1 (続き)

教育課程表 (建築学科専門科目)

専門科目 建築学科 (平成23年度第1～5学年に係る教育課程)

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	応用数学 I	2				2			
	応用微分方程式	2				2			
	物理学概論	2				2			
	情報基礎 I	1	1						
	情報基礎 II	1		1					
	建築情報デザイン I	1				1			
	建築情報デザイン II	1				1			
	造形	4	4						
	建築意匠	3							
	建築構造力学 I	2		3					
	建築構造力学 II	2		2					
	建築構造力学 III	2			2				
	建築一般構造	2	2			2			
	建築一般材料	1			1				
	建築工学実験	2				2			
	鉄筋コンクリート構造	2				2			
	鋼構造	2				2			
	土質基礎構造	2					2		
	建築計画 I	2			2				
	建築計画 II	2				2			
	建築設計演習 I	2	2						
建築設計演習 II	3		3						
建築設計演習 III	6			6					
建築設計演習 IV	6				6				
建築環境工学 I	2			2					
建築環境工学 II	2				2				
建築生産	2					2			
建築生産	2		1				2		
建築史 I	1			1					
建築史 II	1			1					
建築法規	1					1			
建築ゼミナール	1					1			
卒業研究	7						7		
標準修得科目数	34	4	5	7	13	5			
標準修得単位数	75	9	10	15	27	14			
選択科目	選択 B 学修A 学修A	建築構造特論	2					2	4・5年で合わせて11単位以上を修得
		建築構造演習 I	2					2	
		建築構造演習 II	1					1	
		都市地域計画	2					2	
		建築史 II	1				1		
		建築史 III	2					2	
		建築計画 III	4					4	
		建築学演習	3					3	
建築インターンシップ	2					2			
開設単位数	19				3	16			
標準修得科目数	4以上				0以上	3以上			
標準修得単位数	11以上				0以上	8以上			
開設単位数合計	94	9	10	15	30	30	修得単位数		
標準修得科目数合計	38以上	4	5	7	13以上	8以上	専門科目82単位以上		
標準修得単位数合計	86以上	9	10	15	27以上	22以上	一般科目75単位以上		
標準修得科目数総計	81以上	14	15	16	20以上	14以上	合計 167単位以上		
標準修得単位数総計	167以上	31	32	35	37以上	29以上			

(出典 学生生活のてびき P. 85)

平成22年度授業科目担当教員一覧 (専門学科)  
(機械工学科)

開講年次	必修/選択	授業科目名	開講期	単位数	専任											他学科		非常勤				
					國峰	境田	森下	池田	岩野	加藤	松本	関森	藤原	史	大森	本村	細川	上	面田	田中	中村	神田
					勤務形態	氏名	博士号取得者	教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	講師	講師	助教	准教授	准教授			
					専門分野	氏名	博士号取得者	教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	講師	講師	助教	准教授	准教授			
1	必修科目	プログラミング基礎	通年	1																		
1	必修科目	設計製図Ⅰ	通年	3																		
1	必修科目	工作実習Ⅰ	通年	2																		
1	必修科目	機械工学実習Ⅰ	前期	2																		
1	必修科目	機械加工学Ⅰ	後期	1																		
2	必修科目	解析演習Ⅰ	前期	1																		
2	必修科目	設計製図Ⅱ	後期	2																		
2	必修科目	工作実習Ⅱ	通年	2																		
2	必修科目	機械工学実習Ⅱ	通年	2																		
2	必修科目	機械加工学Ⅰ	前期	1																		
2	必修科目	機械加工学Ⅱ	後期	1																		
3	必修科目	プログラミング応用Ⅰ	通年	2																		
3	必修科目	設計製図Ⅲ	通年	4																		
3	必修科目	工作実習Ⅲ	通年	2																		
3	必修科目	機械工学実験Ⅰ	通年	2																		
3	必修科目	機械加工学Ⅲ	前期	1																		
3	必修科目	機構学	前期	1																		
3	必修科目	工業力学	通年	2																		
3	必修科目	材料学Ⅰ	通年	2																		
3	必修科目	設計工学Ⅰ	後期	1																		
3	必修科目	材料力学Ⅰ	通年	2																		
4	必修科目	応用数学	通年	4																		
4	必修科目	応用物理	前期	1																		
4	必修科目	プログラミング応用Ⅱ	通年	2																		
4	必修科目	設計製図Ⅳ	通年	4																		
4	必修科目	工作実習Ⅳ	通年	2																		
4	必修科目	機械工学実験Ⅱ	通年	2																		
4	必修科目	材料学Ⅱ	前期	1																		
4	必修科目	設計工学Ⅱ	後期	1																		
4	必修科目	材料力学Ⅱ	通年	2																		
4	必修科目	熱力学	通年	2																		
4	必修科目	流体力学Ⅰ	通年	2																		
4	必修科目	機械力学	通年	2																		
4	必修科目	力学演習	後期	1																		
4	必修科目	電気電子工学Ⅰ	後期	1																		
4	必修科目	機械工学ゼミナール	後期	1																		
5	必修科目	設計製図Ⅴ	通年	4																		
5	必修科目	機械工学実験Ⅲ	通年	2																		
5	必修科目	自動制御	通年	2																		
5	必修科目	卒業研究	通年	6																		
5	選択科目	経営工学	後期	1																		
5	選択科目	環境工学	後期	1																		
5	選択科目	熱統計力学	後期	1																		
5	選択科目	材料力学Ⅲ	前期	1																		
5	選択科目	流体力学Ⅱ	前期	1																		
5	選択科目	電気電子工学Ⅱ	前期	1																		
5	選択科目	伝熱工学	後期	1																		
5	選択科目	生産工学	後期	1																		
5	選択科目	ロボット工学	前期	1																		
5	選択科目	破壊力学	後期	1																		
5	選択科目	電子制御	前期	1																		
5	選択科目	計測工学	前期	1																		
5	選択科目	工学解析	前期	1																		
□	選択科目	熱管理		2																		

(出典 平成22年度教育課程表及びシラバスより作成)

平成22年度授業科目担当教員一覧 (専門学科)  
(電気情報工学科)

			勤務形態														他学科			非常勤																														
			氏名	大向 雅人	堤 保雄	中井 優一	濱田 幸弘	藤野 達士	堀 桂太郎	上 泰	佐川 敏治	細川 篤	宮本 行庸	榑本 博久	成枝 秀介	廣田 敦志	中尾 陸彦	藤原 誠之	松下 通紀	逸身 健二	河野 良之	古佐小 達也	佐藤 隆士	林 寛	三浦 欽也	水本 公治	森井 雅一	森井 浩																						
																													専門分野	電子材料	半導体工学	画像工学	理論計算機科学	放電工学	パターン認識	制御工学	ネットワーク工学	超音波工学	人工知能	医用電子工学	信号処理	電力工学	電子工学	熱工学	数値流体力学	電力工学	工業所有権	情報科学	発変電工学	データベース
開講年次	必修/選択	授業科目名	開講期	単位数	教授	准教授	講師	助手	嘱託教員	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授	准教授																							
1	必修科目	電気回路Ⅰ	通年	2	○																																													
1	必修科目	プログラミングⅠ	通年	2																																														
1	必修科目	コンピュータグラフィクス	通年	2		○																																												
1	必修科目	電気情報工学実験基礎	通年	2																																														
2	必修科目	電気回路Ⅱ	通年	3						○																																								
2	必修科目	プログラミングⅡ	通年	2																																														
2	必修科目	電気電子計測Ⅰ	通年	2									○																																					
2	必修科目	マイクロコンピュータ	通年	2						○																																								
2	必修科目	電気情報工学実験Ⅰ	後期	2	○																																													
3	必修科目	電気磁気学Ⅰ	通年	2	○																																													
3	必修科目	電子工学	通年	2													○																																	
3	必修科目	回路論	通年	2	○		○																																											
3	必修科目	電気電子工学概論	通年	2								○	○																																					
3	必修科目	情報工学概論	通年	2									○	○																																				
3	必修科目	デジタル電子回路	通年	2						○																																								
3	必修科目	電気情報工学実験Ⅱ	通年	4	○								○	○	○	○																																		
4	必修科目	応用物理学Ⅰ	前期	1													○																																	
4	必修科目	応用物理学Ⅱ	後期	1												○																																		
4	必修科目	過渡現象論	前期	1						○																																								
4	必修科目	電子回路	通年	2													○																																	
4	必修科目	制御工学	通年	2																																														
4	必修科目	課題研究	後期	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																		
4	D必修	応用数学	通年	4																																														
4	D必修J選択	電気磁気学Ⅱ	通年	2	○																																													
4	D必修	固体物性	通年	2	○																																													
4	D必修J選択	電気電子計測Ⅱ	通年	2									○																																					
4	D必修	電気電子工学実験Ⅰ	通年	4						○	○						○	○																																
4	D選択	電気電子材料	通年	2	○																																													
4	D選択J必修	計算機アーキテクチャ	通年	2						○																																								
4	J必修	離散数学	通年	2						○																																								
4	J必修	確率・統計	通年	2						○																																								
4	J必修	プログラミングⅢ	通年	2																																														
4	J必修	オペレーティングシステム	前期	1																																														
4	J必修	データ構造とアルゴリズム	後期	2						○																																								
4	J必修	情報工学実験Ⅰ	通年	4		○		○		○	○			○	○																																			
4	D選択J選択	インターンシップA	通年	1						○	○																																							
4	D選択J選択	インターンシップB	通年	2						○	○																																							
5	必修科目	知的財産権	前期	1																																														
5	必修科目	卒業研究	通年	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																		
5	D必修	パワーエレクトロニクス	後期	1																								○																						
5	D必修	電子物性工学	前期	1	○																																													
5	D必修	電気電子工学実験Ⅱ	前期	2													○	○																																
5	D選択J必修	信号処理	前期	1																																														
5	D選択	離散数学Ⅰ	前期	1						○																																								
5	D選択	確率・統計Ⅰ	前期	1						○																																								
5	D選択	離散数学Ⅱ	後期	1						○																																								
5	D選択	確率・統計Ⅱ	後期	1						○																																								
5	D選択J選択	通信工学Ⅰ	前期	1																								○																						
5	D選択J選択	通信工学Ⅱ	後期	1																																														
5	D選択J選択	情報ネットワーク	後期	1																								○																						

(出典 平成22年度教育課程表及びシラバスより作成)



資料 3 - 1 - ② - 2 (続き)

平成22年度授業科目担当教員一覧 (専門学科)  
(建築学科)

開講年次		必修/選択 授業科目名		勤務形態																																
				専任																																
				氏名	専任分野	坂戸	田坂	八木	水島	東野	大塚	工藤	中川	平石	角野	松野	宮崎	山口	岩本	加藤	寺岡	森崎	宮西	内海	福住	伊藤	菅野	武貞	市澤	野崎	内平	佐々	原直			
						省三	誠一	雅夫	あかね	アリアナ	毅彦	和美	肇	年弘	直哉	通紀	みよし	馨	未佳	司郎	宏治	輝行	悠司	哲也	忠裕	修	健二	勇彦	隆一	隆之	尚美	尚美				
博士号取得者	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
開講期	単位数	教授	助教	助教	講師	准教授	准教授	准教授	講師	准教授	○	○																								
1	必修科目	情報基礎 I	前期	1							○																									
1	必修科目	造形	通年	4	○			○																												
1	必修科目	建築一般構造	通年	2		○					○	○																								
1	必修科目	建築設計演習 I	通年	2				○																												
2	必修科目	情報基礎 II	後期	1			○																													
2	必修科目	建築意匠	通年	3		○	○																													
2	必修科目	建築構造力学 I	通年	2							○																									
2	必修科目	建築設計演習 II	通年	3	○																															
2	必修科目	建築史 I	後期	1										○																						
3	必修科目	建築構造力学 II	通年	2							○																									
3	必修科目	建築材料	後期	1			○																													
3	必修科目	建築計画 I	通年	2			○																													
3	必修科目	建築設計演習 III	通年	6				○	○																											
3	必修科目	建築環境工学 I	通年	2												○															○					
3	必修科目	国学 I	前期	1						○	○																									
3	必修科目	国学 II	後期	1					○																											
4	必修科目	応用数学 I	前期	2								○																								
4	必修科目	応用微分方程式	後期	2								○																								
4	必修科目	物理学概論	通年	2								○																								
4	必修科目	建築情報デザイン I	前期	1					○																											
4	必修科目	建築情報デザイン II	後期	1		○																														
4	必修科目	建築構造力学 III	通年	2						○																										
4	必修科目	建築工学実験	通年	2		○						○																								
4	必修科目	鉄筋コンクリート構造	通年	2		○																														
4	必修科目	鋼構造	通年	2									○																							
4	必修科目	建築計画 II	通年	2	○																															
4	必修科目	建築設計演習 IV	通年	6			○			○				○				○	○																	
4	必修科目	建築環境工学 II	通年	2												○																				
4	選択科目	建築史 II	前期	1																																
4	選択科目	建築史 III	前期	1				○																												
4	選択科目	建築インターンシップ	通年	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	必修科目	建築法規	後期	1																																
5	必修科目	土質基礎構造	後期	2																○																
5	必修科目	建築設備	通年	2			○															○	○													
5	必修科目	建築生産	通年	2																						○										
5	必修科目	卒業研究	通年	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	選択科目	建築構造特論	通年	2																							○									
5	選択科目	建築構造演習 I	前期	2		○																														
5	選択科目	建築構造演習 II	後期	1																																
5	選択科目	都市地域計画	通年	2																												○				
5	選択科目	建築計画 III	通年	2		○																												○	○	
5	選択科目	建築学演習	前期	3				○																												

(出典 平成 22 年度教育課程表及びシラバスより作成)

資料 3 - 1 - ② - 3

平成 22 年度専任教員構成表

学科名	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	平均年齢(歳)	男	女	教員数	博士号取得者数	取得率(%)	教育経験有り	実務経験有り	教育or実務経験有りの割合(%)	
機械工学科	2	1	7	2	0	47	12	0	12	11	91.7%	6	4	7	58.3%
電気情報工学科	2	2	7	2	0	49	13	0	13	13	100.0%	5	5	9	69.2%
都市システム工学科	2	1	3	4	0	45	9	1	10	10	100.0%	6	4	8	80.0%
建築学科	0	3	4	4	0	44	8	3	11	10	90.9%	6	5	8	72.7%
(専門学科全体)	6	7	21	12	0	46	42	4	46	44	95.7%	23	18	32	69.6%
一般科目	2	4	7	6	0	45	15	4	19	10	52.6%	18	4	18	94.7%
全 体	8	11	28	18	0	46	57	8	65	55	84.6%	41	22	50	76.9%
	12.3%	16.9%	43.1%	27.7%	0.0%										

(出典 自己点検・評価報告書 P. 35)

観点 3 - 1 - ③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専攻科では、教育の目的を達成し、より高度で実践的な技術者教育を実施するため、一般教養科目、専門共通科目、専門展開科目を開設している。

専攻科担当教員は博士の学位を有する専任教員 45 名を中心に、非常勤講師を加え、担当授業科目数の均衡化に配慮しつつ、各教員の専門分野との緊密性を考慮して、これらの目的を十分に達成するような教員配置を実現している(資料 3 - 1 - ③ - 1)。担当教員は大学評価・学位授与機構により審査・認定されている。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科では、一般教養科目、専門共通科目、専門展開科目を開設し、本校の学習・教育目標を十分に達成するための教育課程を構築している。この教育課程は、教員の専門分野や担当授業科目数の均衡化等を配慮し、適切な教員配置のもとに実施されている。

以上のことから、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員は適切に配置されている。







観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

(観点に係る状況)

平成22年度の本校の教員は、専門学科46名（機械工学科12名、電気情報工学科13名、都市システム工学科10名、建築学科11名）及び一般科目19名の計65名より構成されている。教員の年齢構成は、各年齢層に渡って概ね均等に分布している。また、教員全体の平均年齢は46歳であり、各学科の教員の平均年齢もこれと大差ない（資料3-1-④-1）。男女別教員数では、全教員における女性教員数（8名）の割合は12%で、一般科目では19名中4名（21%）となっている。女性教員の職位別人数は、教授2名、准教授1名、講師2名、助教3名であり、不均衡は見られない。

本校着任以前に教育経験あるいは企業経験を有する教員の割合は、全体で77%であり、各学科においても概ね60%以上である。これらの教員がその経験を本校での実践的な教育に生かしている。外国人教員については、平成15年度に一般科目英語担当の専任教員1名を公募採用し、学生の国際性の向上を図っている。また、専門学科においても、平成18年度に建築学科で、平成19年度に機械工学科で外国人教員を採用し、専門分野においても国際化を図っている。

博士の学位（以下「学位」という。）を有する専任教員数は全体の85%で、専門学科においては95%を越えている。専門学科の教員公募では、既に学位を有することを公募要項に明記している。なお、学位取得のため社会人ドクターコース制度を活用した事例もある。

活性化策の一つである教員評価制度については、国立高等専門学校機構が、各高专において管理運営、地域社会への貢献、学生教育を中心とする分野で顕著な功績を挙げている教員を称えて表彰を実施している（資料3-1-④-2）。平成21年度は『若手部門優秀賞』を受賞し、本校の教員が全国的にも評価されていることが示された。校内においても教員による自己評価、学生による教員評価、教員相互評価などを毎年実施して上記の顕彰候補者を推薦するとともに、学内表彰を実施している。

(分析結果とその根拠理由)

教員組織の活動を活性化するため、教員募集は公募制とし、教員選考規則に基づく選考体制を整備している。この結果として、教員年齢構成の均衡化や性別による職位の均衡等についても配慮した選考が行われている。また、質の高い実践的な教育を施すため、教育経験や企業経験を重視した教員選考を行うとともに、博士の学位取得者数を高める努力を行っている。国際性を高める観点から、外国人専任教員を採用している。優秀教員評価制度が確立され、制度に基づく表彰を毎年実施している。

以上のことから、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

資料 3 - 1 - ④ - 1

平成 22 年度専任教員構成表

学科名	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	平均年齢(歳)	男	女	教員数	博士号取得者数	取得率(%)	教育経験有り	実務経験有り	教育or実務経験有りの割合(%)	
機械工学科	2	1	7	2	0	47	12	0	12	11	91.7%	6	4	7	58.3%
電気情報工学科	2	2	7	2	0	49	13	0	13	13	100.0%	5	5	9	69.2%
都市システム工学科	2	1	3	4	0	45	9	1	10	10	100.0%	6	4	8	80.0%
建築学科	0	3	4	4	0	44	8	3	11	10	90.9%	6	5	8	72.7%
(専門学科全体)	6	7	21	12	0	46	42	4	46	44	95.7%	23	18	32	69.6%
一般科目	2	4	7	6	0	45	15	4	19	10	52.6%	18	4	18	94.7%
全 体	8	11	28	18	0	46	57	8	65	55	84.6%	41	22	50	76.9%
	12.3%	16.9%	43.1%	27.7%	0.0%										

(出典 自己点検・評価報告書 P. 35)

資料 3 - 1 - ④ - 2

## 教職員表彰要項

(趣旨)

第 1 条教職員（非常勤職員を除く）の表彰。については、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員表彰規則（以下「表彰規則」という。）に定めるもののほか、この要項の定めるところによる。

(本校以外の在職期間の通算)

第 2 条表彰規則第 2 条第 2 項の規定により、国立大学法人等の職員としての在職期間を通算する場合は、次の各号に定める期間を限度とする。

(1) 表彰規則第 2 条第 1 項第 1 号及び同項第 2 号イの場合 10 年

(2) 表彰規則第 2 条第 1 項第 2 号ロの場合 15 年

(表彰)

第 3 条表彰は、校長が別記様式による表彰状を授与することにより行い、あわせて、副賞（表彰規則第 2 条第 1 項にあつては記念品）を贈呈する。

附則（平成 16. 3. 17）

1 この要項は平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 教職員表彰要項)

観点3-2-①： 全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の教育活動を評価する組織として、教育研究活動評価等委員会(資料3-2-①-1)が設置されており、評価事項の検討、評価結果の活用が検討されている。この委員会が中心となり、毎年度、教員の教育活動等の点検及び評価が実施されている。この教員評価は第一次評価、第二次評価、及び第三次評価から成り、1,000点満点で実施される(資料3-2-①-2)。

第一次評価は教員による自己評価(資料3-2-①-3～6)、教員による相互評価(資料3-2-①-7, 8)、及び学生による評価(資料3-2-①-9～11)から成る。第二次評価は教員の自由記述に対する評価で、第三次評価は校長・副校長による総合評価である。

総務課人事係により全教員の評価結果が集計され(資料3-2-①-12)、各教員に自分の評価の集計結果が文書で通知される(資料3-2-①-13)。

学生による授業評価がアンケートとして年に2回行われ、この評価結果は学生も閲覧できる学内ホームページ上で公開されている(資料3-2-①-14)。

(分析結果との根拠理由)

教員の教育活動を評価する委員会が設置され、教員は自己評価、教員による相互評価、学生による評価と多面的な評価を受けている。それらと自由記述に対する評価及び校長・副校長による総合評価をあわせた評価結果が各教員に通知される。学生によるアンケートで、授業評価を受けている。

以上のことから、全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われている。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取り組みがなされている。

資料 3 - 2 - ① - 1

教育研究活動評価等委員会規程

(趣旨)

第 1 条 教員の教育活動及び研究活動の評価及びその運用に関する事項を検討するため、教育研究活動評価等委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長及び校長補佐
- (3) その他校長の指名した者若干名

(委員長)

第 3 条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、副校長がその職務を代行する。

(意見の聴取)

第 4 条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。

(作業部会)

第 5 条 委員会は、必要があるときは、特定の事項について作業部会を設けることができる。

- 2 作業部会の組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

(事務)

第 6 条 委員会の事務は、総務課において処理する。

附則

この規程は、平成 16 年 11 月 10 日から施行する。

附則（平成 17. 3. 2）

この規程は、平成 17 年 3 月 2 日から施行する。

附則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 教育研究活動評価等委員会規程)

## 教員評価の取り扱いについて

## 1. 目的

教員の教育・研究活動等の点検及び評価を実施することにより、教員個人の諸活動の改善及び活性化を図り、本校の教育研究活動及び学校運営の更なる向上に資することを目的とする。

## 2. 実施方法

教員顕彰制度による教員評価をベースに第三次評価までを次のとおり加点方式により実施するものとする。

## (1) 第一次評価

- ①教員による自己評価（教育業績等自己評価）
- ②教員による相互評価
- ③学生による評価

## (2) 第二次評価

教育研究活動評価等委員会（校長、副校長を除く）構成員による書面等による評価

## (3) 第三次評価

校長・副校長による総合評価

## 3. 実施内容

## (1) 第一次評価による配点は次のとおりとする。

## ①教員による自己評価（教育業績等自己評価）

項目	配点	備考
A. 授業等の担当	31	換算点 200点満点
B. FD活動	20	換算点 100点満点
C. 学生生活指導	28	換算点 100点満点
D. 経歴関係	100	100点満点
E. 研究活動	35	換算点 150点満点
F. 地域貢献	25	換算点 100点満点
G. 自由記述	—	
合計	239	【750点満点】

## ②教員による相互評価【換算点 100 点満点】

教員が、教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等に積極的に取り組んでいる本人以外の教員の氏名を3名記入し投票を行う。

## ③学生による教員の評価【換算点 75 点満点】

第1学年～第5学年の全学科において学生全員が教育に熱心な先生を次のとおり記入し投票を行う。

自分の属する専門学科の先生・・・・・・・・3名まで（投票用紙の投票欄に◎を記入）

一般科目または他学科の先生・・・・・・・・5名まで（投票用紙の投票欄に○を記入）

（出典 総務課人事係資料）

資料3-2-①-3

教員の教育業績等自己評価の実施案内

平成22年6月25日

教 員 各 位

校 長

平成22年度教員の教育業績等自己評価の実施について（依頼）

平成22年度の教育業績等自己評価を実施しますので、7月23日（金）までに、「自己評価集計表」及び「自由記述調書」を人事係へ提出ください。

また、「自由記述調書」を人事係へ提出願います。

この自己評価につきましては、平成19年度から試行されています教員評価の基礎資料となりますので、ご留意願います。

各様式については次のURLをご参照ください

<http://jdb.jnet/jinji/Default.htm>

（出典 総務課人事係資料）

## 教員の教育業績等自己評価

**A 授業の担当**（最近3年間の平均とする）【31】**1. 授業について** [6]

(1) 週あたり授業単位時間はどれだけのですか？

(1 単位時間；45分。実験、実習、課題研究を含む。専攻科の授業を含む。卒業研究は含まない。複数教員で担当する場合、実働時間とする。)

1) 1.5 単位時間以上 : [3点]

2) 1.2～1.4 時間 : [2点]

3) 1.1 時間以下 : [1点]

(2) 正規の授業のほかに補習授業を行っていますか？（不定期に実施しているものを含む。）

1) 進学・就職希望者、資格試験受験者および達成度の低い学生に実施している : [3点]

2) 進学・就職希望者および資格試験受験者について実施している : [2点]

3) 達成度の低い学生についてのみ実施している : [2点]

4) 正規の授業で十分理解されていると自信をもっているため、補習授業は行っていない : [1点]

5) 補習授業はまったく考えていない : [0点]

**2. 授業内容・方法** [12]

(1) シラバスは有効に利用していますか？

1) シラバスの内容を学生によく説明し、講義に利用している : [3点]

2) シラバスにおおむね沿った授業にしている : [2点]

3) シラバスはおよその目安としている : [1点]

4) シラバスはほとんど利用していない : [0点]

(出典 総務課人事係資料)

資料 3 - 2 - ① - 5

平成22年度教育業績等自己評価集計表

学科名  職名  氏名

※ 最近何年間の中には、在外研究員としての派遣期間中及び高専・両技科大間交流期間中を含めて回答してください。

A. 授業の担当

1. 授業について

(1)  (2)

計 0 6

2. 授業内容・方法

(1)  (2)  (3)  (4)

計 0 12

3. 成績評価

(1)  (2)  (3)

計 0 8

4. 授業に関する指導

(1)  (2)

計 0 5

B. FD活動

1. 教育、教員の資質向上に関する研究論文の発表

計 0 10

2. 研修への取組み

計 0 10

C. 学生生活指導

1. 課外活動

(1)  (2)  (3)  (4)

計 0 10

2. 厚生補導

(1)  (2)  (3)  (4)

計 0 10

(5)

3. 進路指導及び学外活動

(1)  (2)  (3)  (4)

計 0 8

D. 経歴関係

1. 卒業研究指導の昨年の状況等

(1)  (2)  (3)  (4)

計 0 18

(5)  (6)  (7)

2. 留学生の昨年の指導等

(1)  (2)  (3)

計 0 7

3. 役職等経験

計 0 50

4. 研究活動以外の社会的な表彰等

計 0 25

E. 研究活動

1. 研究活動の状況

計 0 15

2. 研究表彰

計 0 20

F. 地域貢献

1. 学会及び社会活動の状況

計 0 15

2. 教育面での地域貢献

計 0 10

合計

A 0 31 B 0 20 C 0 28 D 0 100

E 0 35 F 0 25

計 0 239

(出典 総務課人事係資料)



資料3-2-①-6

## 自由記述調書

学科：\_\_\_\_\_ 職名：\_\_\_\_\_ 氏名：\_\_\_\_\_

### G. 自由記述欄 (必ず記入してください)

昨年1年間の活動の中で、本校の年度計画達成のために積極的に貢献されたことや上述までの選択肢では反映できない業績等を記述する。【A4用紙 1, 200字以内】

(出典 総務課人事係資料)

資料3-2-①-7

平成22年 6月25日

教 員 各 位

校 長

## 平成22年度教員による相互評価について（依頼）

本年も、国立高等専門学校教員顕彰が行われます。

教員の教育業績等評価として、①教員の自己評価（本校の内容で実施済み。） ②教員による相互評価 ③学生による教員の評価の三項目があり、これに基づき候補者を選考することになります。また、これらの評価は、教員評価の基礎資料として活用されます。

つきましては、教員による相互評価を下記により投票で行いますのでご協力願います。

## 記

## 1. 評価方法

教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等に積極的に取り組んでいる教員の氏名（本人以外）を記入する。

なお、再雇用教員については、対象としない。

## 2. 実施方法

全教員は、同封の「教員相互評価記名用紙」に該当すると考える教員名を3名まで連記のうえ7月16日（金）までに総務課人事係に提出願います。

なお、どのような観点で評価なされたのかを、評価理由欄に簡潔に記入されるようお願いいたします。

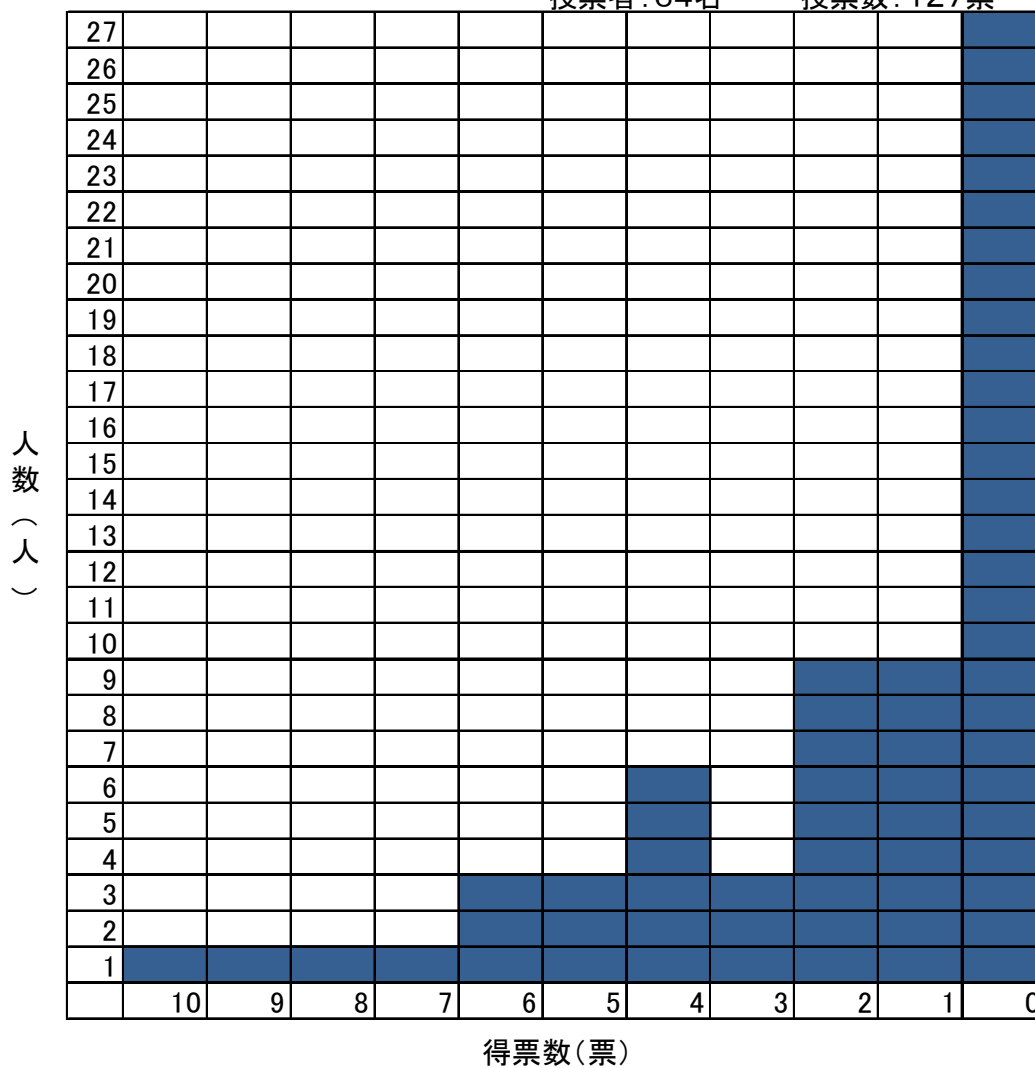
**平成23年度教員相互評価記名用紙（本人以外で3名連記）**

氏 名	評 価 理 由

（出典 総務課人事係資料）

### 平成22年度教員相互評価結果

投票者:64名 投票数:127票



(出典 総務課人事係資料)

資料3-2-①-9

学生による教員評価の実施案内

平成22年 6月25日

担 任 各 位

校 長

平成22年度学生による教員の評価について（依頼）

国立高等専門学校教員顕彰および教員評価の実施にあたり、学生による教員の評価を行うこととなります。

つきましては、下記の点に留意のうえ学生による教員の評価を実施し、回収した投票用紙は7月16日(金)までに総務課人事係へ提出願います。

記

1. 評価方法

学生が以下の項目を参考に複数の教員の氏名を記入する。

- ・教育に熱心な先生
- ・分かりやすく教えてくれる先生
- ・勉強の意義をよく教えてくれる先生
- ・人生に夢を抱かせてくれる先生
- ・部・サークルの指導、生活指導に熱心な先生

2. 実施方法

学生が次の投票を行う。

自分の属する専門学科の先生・・・3名まで（投票用紙の投票欄に◎を記入）

一般科目または他学科の先生・・・5名まで（投票用紙の投票欄に○を記入）

回収した投票用紙は総務課人事係へ提出する。（※切：7/16（金））

（出典 総務課人事係資料）

学生による教員の投票用紙

所属学科	M・E・C・A ※所属学科を○で囲んでください。					
<p><b>★投票について</b></p> <p>1. 自分の属する専門学科の先生については、○を入れてください。(3名まで)</p> <p>2. 一般科目担当の先生又は他学科の先生については、○を入れてください。(5名まで)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><b>評価に当たって参考となる諸点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に熱心な先生</li> <li>・分かりやすく教えてくれる先生</li> <li>・勉強の意義を良く教えてくれる先生</li> <li>・人生に夢を抱かせてくれる先生</li> <li>・部・サークルの指導、生活指導に熱心な先生</li> </ul> </div>	所属	氏名	投票欄	所属	氏名	投票欄
	機械工学科	池田 光優		建築学科	大塚 毅彦	
		岩野 優樹			角野 嘉則	
		大森 茂俊			工藤 和美	
		加藤 隆弘			坂戸 省三	
		國峰 寛司			荘所 直哉	
		境田 彰芳			田坂 誠一	
		史 鳳輝			中川 肇	
		関森 大介			東野 アドリアナ	
		藤原 誠之			平石 年弘	
		本村 士郎			水島 あかね	
		松下 通紀			八木 雅夫	
		森下 智博			穂本 浩美	
	電気情報工学科	大向 雅人		一般科目	石田 祐	
		上 泰			井上 英俊	
		佐村 敏治			面田 康裕	
		堤 保雄			倉光 利江	
		橋本 博久			後藤 太之	
		中井 優一			善塔 正志	
		成枝 秀介			高田 功	
		濱田 幸弘			高野 啓児	
		廣田 敦志			武内 将洋	
		藤野 達士			仁木 夏実	
		細川 篤			二宮 博	
		堀 桂太郎			ハーバート ジョン	
	都市システム工学科	宮本 行庸		本間 哲也		
		大橋 健一		前原 澄子		
		石丸 和宏		松下 幸一		
		江口 忠臣		松田 安隆		
		越智 内士		松宮 篤		
		武田 字浦		山形 紗恵子		
		檀 和秀				
		友久 誠司				
	鍋島 康之					
	渡部 守義					

※一覧表の並びは、学科毎、氏名の50音順とした。

(出典 総務課人事係資料)

資料3-2-①-11

平成22年度学生による評価結果

投票者:833名 投票数:5,492票

得票数(票)	297						
	278						
	271						
	244						
	200						
	186						
	184						
	175						
	165						
	158						
	153						
	151						
	144						
	138						
	126						
	124		1				
	115						
	114						
	106						
	89						
	86						
	85						
	82		1				
	81						
	79						
	76						
	67						
	62						
	59						
	58		1	1			
	56						
	54						
	53						
	52						
	48		1				
	45						
	44						
	43		1	1	1		
	42						
	40						
	39						
	38						
	37						
	35						
	28						
	25						
	23						
	22						
	19		1				
18							
17		1					
13							
7							
6							
4957	1	2	3	4	5	6	7

人数(人)

(出典 総務課人事係資料)

評価結果の集計

総合 順位	第一次評価														第二次 評価	第三次評価				総合 得点		
	A	B	C	D	E	F	換算後の合計		相互評価		学生評価		自由記述による業績評価	校長及び副校長による総合評価75点								
	授業の担当	F D 活動	学生生活指導	経歴活動	研究活動	地域貢献	得点	順位	得点	順位	得点	順位		得点		順位	校長	副校長	得点		順位	
	200/31	100/20	100/28	100/100	150/35	100/25																換算得点(最 多 得 点 者 を 100 点 と す)
1	194	80	100	72	107	92	645	1	9	90	2	45	11.3	41	746	1	A	75	75	75	1	821
2	194	65	92.8	44	64.2	68	528	7	6	60	5	278	70.2	2	658	2	A	75	75	75	1	733
3	181	70	85.7	63	107	100	606	2	2	20	20	81	20.4	26	647	3	B	70	70	70	11	717
4	135	100	53.5	49	150	88	576	3	4	40	11	79	19.9	27	636	4	A	75	75	75	1	711
5	161	50	71.4	67	64.2	100	514	12	10	100	1	40	10.1	48	624	5	A	75	75	75	1	699
6	200	75	85.7	42	64.2	84	551	5	4	40	11	85	21.4	23	612	8	B	70	70	70	11	682
7	161	60	100	52	107	84	564	4	2	20	20	115	29	18	613	7	A	50	50	50	41	663
8	161	65	96.4	87	38.5	72	520	10	5	50	8	175	44.1	8	614	6	A	50	45	47.5	46	662
9	187	50	96.4	66	64.2	60	524	9	1	10	29	184	46.4	7	580	9	B	70	70	70	11	650
10	174	80	53.5	22	55.7	20	405	30	8	80	3	297	75	1	560	11	A	75	70	72.5	9	633
11	181	70	82.1	52	107	44	536	6	1	10	29	42	10.6	47	556	12	A	70	70	70	11	626
12	187	100	100	22	64.2	40	513	13	3	30	17	106	26.7	20	570	10	B	55	50	52.5	37	622
13	155	100	67.8	63	30	48	464	20	6	60	5	48	12.1	39	536	15	A	70	75	72.5	9	608
14	168	55	82.1	66	55.7	100	527	8	0	0	38	59	14.8	31	541	14	A	65	60	62.5	23	604
14	174	55	67.8	52	42.8	80	472	16	5	50	8	48	12.1	39	534	16	A	70	70	70	11	604
16	142	100	64.2	35	64.2	96	501	14	2	20	20	43	10.8	43	532	17	A	70	70	70	11	602
17	187	100	92.8	64	64.2	12	520	11	0	0	38	124	31.3	16	551	13	B	50	50	50	41	601
18	181	5	82.1	32	107	60	467	18	4	40	11	76	19.1	28	526	19	B	60	60	60	27	586
19	161	75	71.4	40	64.2	76	488	15	2	20	20	82	20.7	24	529	18	A	55	55	55	36	584
20	181	100	71.4	34	64.2	16	466	19	2	20	20	144	36.3	13	523	20	B	60	60	60	27	583
21	148	30	75	38	60	56	407	28	7	70	4	82	20.7	24	498	21	A	75	75	75	1	573
22	148	75	57.1	38	64.2	44	427	25	5	50	8	43	10.8	43	487	22	B	70	70	70	11	557
23	161	50	85.7	42	55.7	76	471	17	0	0	38	56	14.1	35	485	24	B	60	60	60	27	545
24	148	15	85.7	48	25.7	76	399	33	4	40	11	124	31.3	16	470	25	A	70	70	70	11	540
25	181	25	75	55	77.1	40	453	21	2	20	20	58	14.6	32	487	23	B	35	40	37.5	54	525
26	168	75	82.1	39	64.2	0	428	24	0	0	38	86	21.7	22	450	28	B	70	70	70	11	520
27	174	50	60.7	35	51.4	32	403	32	3	30	17	43	10.8	43	444	30	A	70	70	70	11	514
28	110	100	78.5	48	64.2	36	436	22	1	10	29	19	4.7	57	451	27	A	60	60	60	27	511
29	148	75	42.8	15	64.2	32	377	39	0	0	38	271	68.4	3	446	29	B	60	60	60	27	506
30	155	20	60.7	35	64.2	72	407	29	2	20	20	54	13.6	36	440	31	B	65	60	62.5	23	503

(出典 総務課人事係資料)

資料3-2-①-13

校長による教員評価結果の通知

平成22年11月18日

殿

校長

平成22年度教員評価の結果について（通知）

先般、実施しました教員評価の結果を、下記のとおり通知いたします。

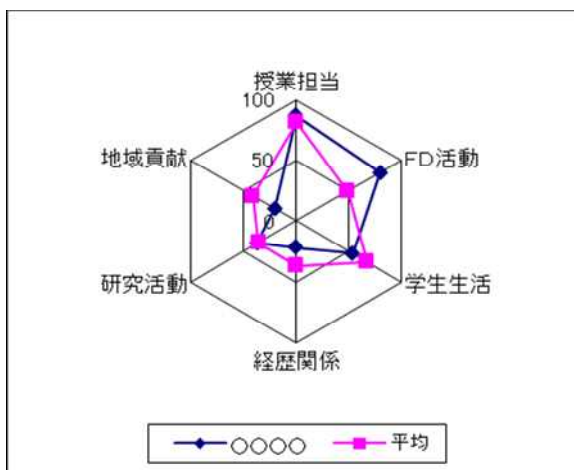
なお、よりの確な評価のために得点については、小数点第1位まで掲載することとしております。

1. 第一次評価

(1) 得点及び順位

評価項目	得点	順位	平均点
自己評価(750点)	405.3点	30 / 60	412.7点
相互評価(100点)	80点	3 / 64	20.8点
学生評価(75点)	75点	1 / 64	22.3点
合計	560.3点	11 / 60	455.8点

(2) 自己評価分析



2. 第二次評価

評価項目	評価内容
自由記述に基づく評価	A

※A～Cによる3段階評価

3. 第三次評価

評価項目	得点
校長・副校長による総合評価(75点)	72.5点

4. 評価集計

総合得点	総合順位
632.8点	10 / 60


(出典 総務課人事係資料)



資料 3 - 2 - ① - 14

(22年度) 学生による授業アンケート集計表

科目名: \_\_\_\_\_ クラス: \_\_\_\_\_ 教員名: \_\_\_\_\_

質問項目	評価					回答数	平均	
	5	4	3	2	1			
問1 総合評価	6	9	4	1	0	20	4.00	
問2 説明の仕方・黒板の使い方	9	6	3	2	0	20	4.10	
問3 教科書や教材の選定	7	7	5	1	0	20	4.00	
問4 学生の理解度を確認していたか	6	8	5	1	0	20	3.95	
問5 授業に興味を持てるような工夫	3	10	5	2	0	20	3.70	
問6 シラバス通り行われたか	7	9	3	1	0	20	4.10	
問7 授業の目標を理解していたか	5	10	4	0	1	20	3.90	
問8 自分の目標を達成できたか	3	8	8	0	1	20	3.60	

問9 この授業の良かった点(学生の自由記述)

- 1 プリントが見やすい。
- 2 実際のコードと図解がついている。
- 3 実際にソースを書くのは力になった。
- 4 資料を配布してもらえたこと。
- 5 スライドの内容をプリントで配付して貰える点が良かった。
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10

問10 この授業をもっと良くするために必要だと思うこと(学生の自由記述)

- 1 教科書をもっと使ってほしい。それが、買わせないか。
- 2 疑似PASCALでは理解しにくいので、全てC言語でプログラムを記述してほしい。
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10

【担当教員からの講評】

授業中、教科書を参照することは少ないのですが、授業で使用するスライドは教科書をもとに作成しています。さらに深く勉強をしたい人には教科書が必要です。eラーニングシステムで毎週、小テストが出され、プログラミング課題が6つあるのでなかなか時間がとれないかもしれませんが、教科書の章末問題も自主的に解いてもらえればと思います。

教科書ではほとんどのアルゴリズムが疑似Pascalで書かれています。これは、疑似Pascalがアルゴリズムの本質的な部分を記述するのに適しているからです。アルゴリズムをC言語で記述すると、細かい部分まで書かねばならないため、複雑なアルゴリズムでは本質的な部分を理解するのに骨が折れます。

(出典 学生課教務係資料)

観点3-2-②： 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の採用や昇格の手続きは、教員選考規則(資料3-2-②-1)で定められており、教員選考委員会が選考にあたる。教員の採用や昇格に関する基準は明石工業高等専門学校教員選考基準(資料3-2-②-2)で定められている。

教員の採用は、公募によって行っている(資料3-2-②-3)。各学科において、必要な教員の専門分野、経験、職名などを検討し、学科長が選考委員会に報告する。選考委員会はこの報告をもとに、高等専門学校設置基準も考慮して、選考方針、及び公募要領を決定する。全国の大学、高等専門学校、企業等に広く公募するほか、学会誌、研究者人材データベース、本校ホームページでも公表している。選考に際しては書類審査により原則として3名以上の面接候補者を挙げ、面接審査と模擬授業を経て選考委員会が採用者を決定している。

教員の昇格に際しては、選考委員会が候補者の教員選考個人調書(資料3-2-②-4)と自己評価報告書(資料3-2-②-5)による書類審査でその教育・研究活動実績等を評価し、設置基準も考慮して面接審査実施の可否を決定する。そののち選考委員会による候補者の面接審査を経て昇格の可否を決定している。

なお、非常勤講師の採用に当たっても、非常勤講師任用に関する基準(資料3-2-②-6)を定めており、これに基づき教員選考委員会が任用を決定している。

(分析結果とその根拠理由)

教員の採用や昇格に関する基準及び手続きの規定が明確に定められている。公募に際しては、高等専門学校設置基準に示された職位に応じた応募資格を公募文書ではっきりと謳っている。書類審査、面接審査の手続きは適切に定められており、また審査に際しては、高等専門学校設置基準に定められた教員資格を基準として、独自に候補者の教育指導能力の評価も行っており、適切に運用がなされている。

以上のことから、教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされている。

## 教員選考規則

(目的)

第1条 この規則は、教員の選考に関する事項を定めることを目的とする。

(教員選考委員会)

第2条 教員を採用、昇任する場合、候補者の選考を行うため、校長は、教員選考委員会（以下「選考委員会」という。）を開催する。

(選考委員会の構成)

第3条 選考委員会は次の者により構成する。

- (1) 校長
- (2) 副校長
- (3) 各学科長及び一般科目長（以下「学科長」という。）
- (4) 選考を行おうとする学科又は一般科目（以下「学科」という。）の教授1名（昇任及び非常勤講師の選考の場合を除く。）
- (5) その他校長が必要と認めた者

2 前項第4号及び第5号の委員は、人事案件ごとに、校長が指名する。

3 第1項第4号の委員の指名に当たっては、特別な理由があり、かつ、教授以外の採用の場合には選考委員会で審議の上、准教授とすることができる。

4 校長は委員長となり、選考委員会を招集する。

(選考委員会の議事及び議決)

第4条 選考委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことはできない。

2 選考委員会の議決は、出席委員の3分の2以上の賛成による。

(選考方針等の決定)

第5条 学科長は、欠員補充のため教員を選考する必要があるときは、各学科において、選考方針（公募、学内昇任等）、専攻分野等を検討し、その結果を校長に報告する。

2 校長は必要と認めた場合、選考委員会で審議の上、選考方針及び公募要領等を決定する。

3 公募を行う場合は、校長名で広い範囲にわたって、候補者を求めるものとする。

(採用の場合の手続き)

第6条 採用の手続きは次のとおりとする。

- (1) 選考は、書類審査及び面接審査等により実施する。
- (2) 学科長は、各学科において応募者の書類審査を実施し、その結果を選考委員会に報告する。
- (3) 選考委員会は、書類審査により、原則として3名以上面接候補者を選考する。
- (4) 書類審査により選考された者に、面接審査を実施する。
- (5) 面接審査は、校長、副校長、当該学科の学科長、当該学科以外の学科長1名及び第3条第1項第4号の者により実施する。
- (6) 選考委員会は、面接審査の結果、採用候補者を決定する。
- (7) 採用候補者が得られない場合は、改めて公募を実施する。

(学内昇任の場合の手続き)

資料 3 - 2 - ② - 1 (続き)

第 7 条 学内昇任の手続きは次のとおりとする。

- (1) 選考は、書類審査及び面接審査等により実施する。
- (2) 学科長は、選考委員会において、学科における昇任の方針、候補者の適格性等について報告する。
- (3) 選考委員会は、書類審査を実施し、投票により面接審査実施の可否を決定する。
- (4) 面接審査は、校長、副校長及び学科長により実施する。
- (5) 面接審査の結果、投票により昇任の可否を決定する。

(非常勤の講師の選考)

第 8 条 本校で初めて講義等を担当することとなる非常勤講師の選考は、選考委員会において書類審査を実施する。

(その他)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、教員の選考に関し必要な事項は、選考委員会で審議の上、校長が決定する。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 20 年 4 月 16 日から施行する。

(出典 教員選考規則)

資料 3-2-②-2

## 明石工業高等専門学校教員選考基準

平成20年 8 月 4 日  
校長 決 裁  
(教員選考委員会承認)

1. 明石工業高等専門学校教員選考規則第9条の規定に基づき、明石工業高等専門学校の教員の選考基準を定める。
2. 教員の採用及び昇任に係る選考は、高等専門学校設置基準（昭和36年文部省令第23号）及び国立高等専門学校基本方針「新たな教員組織と教育研究活動支援体制について」（平成18年11月14日付け18高機総第260号）に定めるもののほか、この基準の定めるところによる。
3. 教員として採用することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。ただし、採用時までに取り得が見込まれる者を含む。
  - (1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
  - (2) 一般科目の教員については修士以上の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
  - (3) 技術士等の資格を有する者
4. 教授に昇任することができる者は、教務、学生又は寮務のいずれかの主事又は副主事もしくは情報センター、技術教育支援センター、テクノセンター又は学生相談室のいずれかの長を経験した者とする。
5. 教員の採用及び昇任の選考審査は、教育（学生指導を含む。）、研究、学校運営及び社会貢献並びに人物の総合評価により行う。
6. 研究については、別表に定める著書、論文等の基準を満たしていなければならない。ただし、教育（学生指導を含む。）又は学校運営等において、特に優れていると教員選考委員会が認めた場合は、別途考慮する。
7. 助手を採用する場合の基準については、教員選考委員会が別に定める。

## 附 則

この基準は、平成20年8月4日から施行する。

## 附 則

この基準は、平成22年10月1日から施行する。

## 別 表

## 著書、論文等の基準

区 分	著 書、論 文 等
教 授	過去5年以内に3編以上
准 教 授	過去5年以内に2編以上
講 師	過去5年以内に1編以上
助 教	過去5年以内に1編以上

- (備考) 1. 著書については単著とする。
2. 論文等とは、原則として査読を経たものをいい、学位論文は含まないものとする。
3. 次の場合にあつては、教員選考委員会で審査するものとする。
- (1) 著書で単著以外の場合
  - (2) 論文等で筆頭著者以外の場合
  - (3) 特許、作品等を著書、論文として読み替える場合

(出典 明石工業高等専門学校教員選考基準)

資料 3-2-②-3

教員採用の公募例

明高専総第 713 号  
平成 23 年 2 月 10 日

関係大学(学部)長  
関係高等専門学校長 殿  
関係機関の長

明石工業高等専門学校長  
京 兼 純  
[公印省略]

教員の公募について

1. 職名・人員 講師または助教 1名
2. 所属 電気情報工学科
3. 専門分野 電気電子系
4. 担当科目等 電気電子工学に関する実験科目、講義科目及び卒業研究等
5. 採用予定日 平成 23 年 10 月 1 日または平成 24 年 4 月 1 日
6. 応募資格 (1) 博士の学位を有する方、または技術士の資格を有する方  
(採用時取得見込みも含む)  
(2) 高等専門学校の教育、学生指導及び研究に熱意のある方
7. 提出書類 (1) 履歴書(市販用紙に本人自筆・写真貼付)  
(2) 研究教育業績一覧(研究論文・著書・学会・教育活動など)  
(3) 主要な教育・研究論文の別刷り(コピー可)  
(4) 推薦書(自薦の場合は、応募者について所見を伺える方 1~2 名の所属、氏名及び連絡先)  
(5) 着任後の教育・研究に関する抱負(A4 用紙 1,000 字程度)
8. 応募締切 平成 23 年 6 月 30 日 必着
9. 選考方法 第一次選考 書類審査  
第二次選考 第一次選考合格者を対象に面接審査  
(面接に伴う旅費、宿泊費等は応募者負担とします)
10. 書類提出先 〒674-8501 兵庫県明石市魚住町西岡 679-3  
明石工業高等専門学校 総務課人事係  
(封筒に「電気情報工学科教員応募書類」と朱書き、書留で郵送してください。  
応募書類は原則として返却しませんが、特に返却を希望する場合は、宛名を書いた返信用封筒を同封してください)
11. 問い合わせ先 明石工業高等専門学校 電気情報工学科 学科長 大向雅人  
TEL: 078-946-6124  
FAX: 078-946-6138  
E-mail: ohmukai@akashi.ac.jp

(出典 総務課人事係資料)

資料3-2-②-4

教員選考個人調書

昇任させようとする職		学科				
ふりがな 氏名	男・女 (昭和 年 月 日 歳)	現住 所				
現 職						
最 終 学 歴						
学 位・称 号						
担当授業科目	授業科目名	学 年	単 位	担当教員 数	昇任前 と の 差 異	
資 格 免 許 状						
教歴及び職歴						
教歴及び職歴の 年数	教 歴 年 月 ( . )	職 歴 年 月 ( . )	計	年 月 ( . )		

(出典 総務課人事係資料)

自己評価報告書

学科名	職名	氏名
1. 授業担当状況 ・平均担当コマ数 ・平均研究指導学生数 ・授業内容・方法等の改善	□	□ □ □
2. 教育活動状況 ・教育に関する研究論文数 ・教育研究集会への参加・研究発表数 ・公開講座の企画・講師担当件数 ・地域貢献	□	□ □ □ □
3. 学生生活指導 ・学級担任年数 ・クラブ顧問平均回数 ・学内行事での学生指導 ・厚生補導取り組み状況 ・進路指導取り組み状況	□	□ □ □ □ □
4. 校務分担(委員会委員等) ・主事回数 ・副主事回数 ・委員会委員担当数 ・その他の校務分担状況	□	□ □ □ □
5. 研究業績 ・著書 ・研究論文発表数 内学術誌 内紀要 内口頭発表 ・在外研究、内地留学件数 ・科研費、奨学寄附金、特許件数 ・受託研究、共同研究件数	□	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □
6. 学会・社会活動 ・学会役員歴(件数) ・国・自治体の審議会委員件数	□	□ □
7. 自由記述		

上記のとおり報告いたします。 (記入日)

(署名)

【記入要領】

- ・過去5年間の実績に基づいて記入する。
- ・大項目については、5段階評価で記入する。(最良:5 最低:1)
- ・件数等数字で明記するように指示されていないものについては、○、△、×で表示する。

(出典 総務課人事係資料)



資料 3 - 2 - ② - 6

明石工業高等専門学校非常勤講師任用に関する基準

平成 8 年 1 月 10 日 運営委員会承認

- 1 . 非常勤講師は、特殊な専門的知識・技術を必要とする授業の円滑な推進をはかるため、必要最少限の範囲内において本校外の学識経験者に委嘱するものとする。
- 2 . 非常勤講師は、優れた識見をもち、本校の教育方針に添った教育指導のできる者で、次に該当するものとする。
  - ( 1 ) 高等専門学校設置基準に定められた講師以上の教員資格を有する者
  - ( 2 ) 年齢満 67 歳以下の者  
ただし、教授を行う上で特に必要と認める場合は、教務委員会の承認を得て年齢満 69 歳まで延長することができる。
  - ( 3 ) 心身ともに健全であること
- 3 . 非常勤講師の授業時間は、原則として 1 週 8 時間以内とする。
- 4 . 特別な事情により、この基準により難しい場合は、運営会議にはかり、校長が決定するものとする。

附 則

この基準は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この基準は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この基準は、平成 22 年 5 月 12 日から施行する。

(出典 明石工業高等専門学校非常勤講師任用に関する基準)

**観点3-3-①： 学校における教育活動を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

本校の事務部のうち、教育活動の展開に直接的に関係するのは学生課及び総務課教育研究プロジェクト支援室である(資料3-3-①-1)。また、全学的な技術系の教育支援に関わる組織として技術教育支援センター(以下「支援センター」という。)がある(資料3-3-①-2)。

学生課の事務分掌は、事務分掌規程に明文化されている(資料3-3-①-3)。

教務係では、4名の職員がシラバス作成、成績管理、学生異動管理、履修管理、及び入試関連業務を分担して担当している。学生の授業出欠記録、定期試験の成績報告、シラバス作成などはオンラインシステムにより効率的な処理を行っている。

学生係では、課外教育、奨学金等、部活動、安全管理、保健管理、厚生補導、就職など、学生生活に関することを担当している。

寮務係では、学生寮における施設設備の維持保全及び環境整備に関することや、学生寮の管理運営に関することを担い、学生が学寮で安全で健全な生活が送れるように配慮している。

図書係には、司書あるいは専門的知識を有する者を配置している。

教育・研究プロジェクト支援室は、研究助成関係、産学連携、公開講座、テクノセンターに関する業務を専門的に行っている。

学生の実験・実習の技術的支援や教職員からの技術相談などを担当する技術職員(平成22年度は11名)は技術教育支援センターに配属され、1名の技術長と3名の班長を置き、専門性(機械系、電気・情報系、都市・建築系)を考慮した適切な人員配置を行っている。技術職員の業務は授業支援(資料3-3-①-4)、研究支援、依頼加工、設備機器の維持管理など多岐に渡るが、毎年各部署から提出される業務申請書(資料3-3-①-5)によって業務内容や業務担当者を明確にし、支援業務が円滑かつ効果的に実施されている。

電気情報工学科については、4年次以降コース制を導入しているため、実験・実習・演習科目が多い。このため、全学年の実験・実習を担当し、他の教員の指示・依頼に基づいて、技術職員と協力しながら実験装置の管理と部品の調達等を行うために、助手を1名配置している(資料3-1-②-2)。

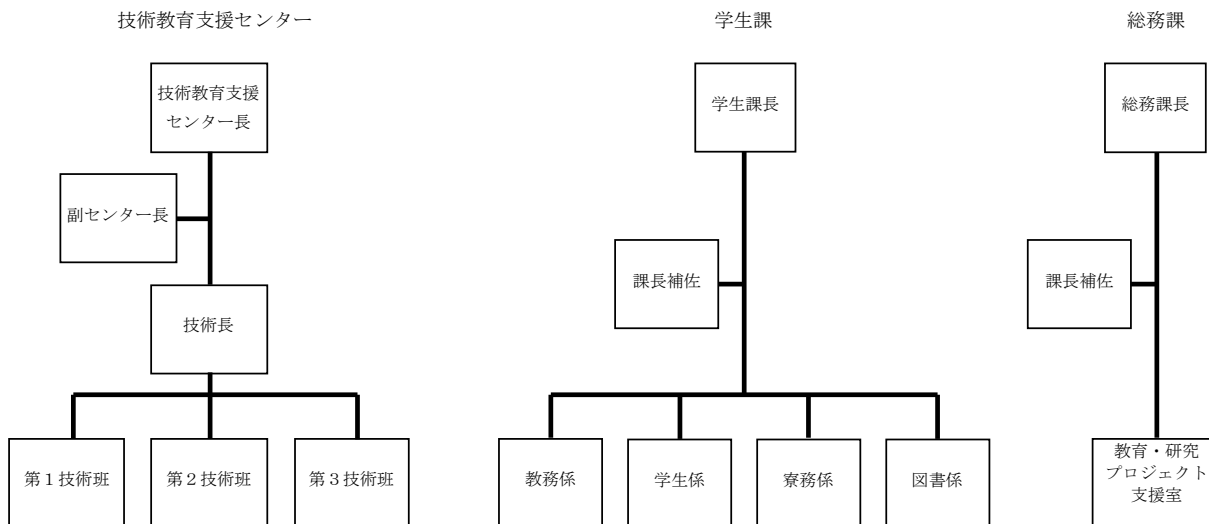
(分析結果とその根拠理由)

本校の事務部のうち、教育活動の展開に直接的に関係するのは学生課及び総務課教育研究プロジェクト支援室である。学生課の教務係、学生係、寮務係及び図書係においては、授業、成績、履修、入試関係、課外活動、学生に対する援助、学生寮の管理運営等の教育支援業務を的確に実施するために、業務内容に基づく適切な人数の職員配置を行っている。これらの業務は、オンラインシステムにより効率化が図られている。技術職員は、技術教育支援センターに属し、教育・研究に関する技術支援と専門的業務を行うために、専門性を考慮して適切に配置されている。

以上のことから、本校における教育活動を展開するのに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

資料 3-3-①-1

技術教育支援センター及び学生課の組織図



(出典 現状の組織をもとに作成)

資料 3-3-①-2

技術教育支援センター規則

(設置)

第1条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育・研究に関する技術的支援と専門的業務を円滑かつ効率的に行うため、技術教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

(組織)

第2条 センターに、センター長、副センター長、技術長、技術専門職員及び技術職員を置く。

2 センターに、技術専門員を置くことができる。

3 前項に掲げる者のほか、特定事項の教育支援を行うため、専任教員を置くことができる。

4 センターに、第1技術班（機械系）、第2技術班（建設系）、第3技術班（電気・情報系）を置く。

(業務)

第3条 センターは、本校の教育・研究の支援及び技術に関する次の業務を行う。

- (1) 学生の実験実習、演習及び卒業研究に関する技術指導
- (2) 全校を対象とした技術に関する業務
- (3) 共同研究等における技術相談、技術協力及び技術指導に関すること
- (4) センターの管理・運営に関すること
- (5) その他、センター長が必要と認めたもの

2 前条第3項に定める各技術班においては、当該各分野に関する専門技術業務及び技術開発並びに学生の技術指導を行う。

(出典 技術教育支援センター規則)

## 事務分掌規程

(趣旨)

第1条事務組織規程第5条第3項及び第7条第2項の規定に基づく課長補佐並びに各係の名称及び事務分掌については、この規程の定めるところによる。

(総務課)

第2条総務課に課長補佐(総務担当)、課長補佐(財務担当)、課長補佐(教育・研究プロジェクト支援室長)及び次の7係を置く。

総務係

人事係

情報係

財務係

調達係

施設係

教育・研究プロジェクト支援係

2 課長補佐(総務担当)は、次の事務をつかさどる。

- (1) 総務課の事務のうち、総務に関する事務の総括及び連絡調整に関すること。
- (2) 公印の管守(会計機関の公印を除く)に関すること。
- (3) 自己点検・評価、外部評価及び認証評価に関すること。
- (4) 将来構想に関すること。
- (5) 中期計画の評価等に関すること。
- (6) 日本技術者教育認定機構(JABEE)に関すること。
- (7) 創立五十周年記念事業に関すること。

(学生課)

第3条学生課に課長補佐及び次の4係を置く。

教務係

学生係

寮務係

図書係

2 課長補佐は、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生課の事務の総括及び連絡調整に関すること。
- (2) 学生募集に関すること。
- (3) 学生(外国人留学生を含む。)の入学者の選抜に関すること。
- (4) その他入試事務に関すること。

3 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の異動等学籍に関すること。
- (2) 教育課程の編成及び授業に関すること。
- (3) 学生の試験に関すること。
- (4) 学生の学業成績及び「共生システム工学教育プログラム」に関すること。
- (5) 学生の修学指導に関すること。
- (6) 学生の教務に係る調査及び統計に関すること。
- (7) 入学試験に係る調査及び統計に関すること。
- (8) その他入学試験に関すること。
- (9) その他学生課の他係に属さない事項に関すること。

4 学生係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の課外教育に関すること。
- (2) 学生に対する奨学金、授業料等の減免・徴収猶予及び経済的援助に関すること。
- (3) 学生旅客運賃割引証及び通学証明に関すること。
- (4) 日本スポーツ振興センター「災害共済給付」の事務に関すること。
- (5) 課外活動施設、福利厚生施設及び保健室の管理運営に関すること。
- (6) 学生の安全管理及び保健管理に関すること。
- (7) 学生相談に関すること。
- (8) 学生に対する職業指導及び就職あっせんに関すること。
- (9) 学生の集会・掲示等に関すること。
- (10) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
- (11) 学生の遺失物及び拾得物に関すること。
- (12) 学生主事及び学生課長印の管守に関すること。
- (13) 学生の厚生補導に係る調査及び統計に関すること。

(出典 事務分掌規程)

資料 3-3-①-4

平成 23 年度 技術教育支援センター 授業支援一覧(前期)

技術職員名	月				火				水				木			
	1限	2限	3限	4限	1限	2限	3限	4限	1限	2限	3限	4限	1限	2限	3限	4限
大西一生	工作実習Ⅱ 2M	レポート チェック	実習準備		工作実習Ⅳ 4M	レポート チェック	実習準備		工作実習Ⅰ 1M	レポート チェック	実習準備		工作実習Ⅲ 3M	依頼加工	補充指導 依頼加工	
中村陽介	工作実習Ⅱ 加藤 2M	レポート チェック	実習準備		工作実習Ⅳ 4M	レポート チェック	実習準備		工作実習Ⅰ 1M	レポート チェック	実習準備		工作実習Ⅲ 3M	依頼加工	補充指導 依頼加工	
西村蔵生	工作実習Ⅱ 加藤 2M	レポート チェック	実習準備		工作実習Ⅳ 4M	レポート チェック	実習準備		工作実習Ⅰ 1M	レポート チェック	実習準備		工作実習Ⅲ 3M	依頼加工	補充指導 依頼加工	
内藤永秀	実習準備	測量実習Ⅱ 2C	実験室片付 学生対応		実習準備	測量実習Ⅰ 1C			工学実験Ⅲ 5C	専攻科特 別研究 2AC	事務作業		専攻科特 別研究 2AC	実験準備	工学実験Ⅰ 3C	
		専攻科特 別研究 1AC,2AC				卒業研究 5C			測量学Ⅱ 2C				測量学Ⅰ 1C	卒業研究 5C		
古小路祐介	実習準備	測量実習Ⅱ 2C	実験室片付 学生対応		実習準備	測量実習Ⅰ 1C			工学実験Ⅲ 5C	専攻科特 別研究 2AC	学生対応		専攻科特 別研究 2AC	実験準備	工学実験Ⅱ 4C	
		専攻科特 別研究 1AC,2AC				卒業研究 5C			測量学Ⅱ 2C				測量学Ⅰ 1C	卒業研究 5C		
井岡 満	実験準備	実験準備	建築工学 実験 4A	事務作業	各種依頼業務				実習準備	図学Ⅰ 3A	後片付け 整理		制作業務依頼	専攻科特 別研究 1AC	卒業研究 5A	
福田 豊	情報センター維持管理	情報センター維持管理	情報処理Ⅱ 4C	情報センター維持管理	計画学 4C	情報センター維持管理		情報センター維持管理	情報センター維持管理	情報センター維持管理	情報センター維持管理	情報センター維持管理	情報センター維持管理	情報センター維持管理	情報センター維持管理	
中川卓也	情報センター支援	卒研支援	機械工学 実験Ⅱ 4M	電気回路Ⅰ 1E	卒研支援/ 情報センター支援				情報センター支援	卒研支援			機械工学実験Ⅰ 3M	卒研支援/ 情報センター支援		
豊永哲男	進路資料整理	事務作業	電気電子工学 実験基礎 1E	実験片付け	電気情報工学実験Ⅱ 3E				進路資料整理	事務作業			電気電子工学実験Ⅱ 5E	電気電子工学実験Ⅰ 4E		
井谷武史	コンピュータ ラフィックス 1E	演習室維 持管理	情報セン ター支援	情報セン ター支援	電気電子工学 実験基礎 1E	実験準備	電気情報工学実験Ⅱ 3E	事務作業	演習室維 持管理	プログラミ ングⅠ 1E	実験準備		電気電子工学実験Ⅱ 5E	電気電子工学実験Ⅰ 4E		

(出典 技術教育支援センター資料)

資料 3-3-①-5

平成 22 年度 業務申請一覧 (一部)

整理番号	名称	項目	期間	支援内容	部科課	申請者	前期		後期		人数	系
							週・学年	時限	週・学年	時限		
1	MeA	機械工学実験 I・II M境田		実験・実習・演習支援	機械工学科	境田 彰芳						M 系
2	MeA	応用物理 II M藤原		実験・実習・演習支援	機械工学科	藤原 誠之						
3	MeA	進路資料まとめ協力 M松下		進路資料	機械工学科	松下 通紀						
4	EJA	電気情報工学実験 I E廣田	後期授業	RS 実験・実習・演習支援	電気情報工学科	廣田敦志			2		2	
5	EJA	電気情報工学実験 II E廣田	通年授業	RR	電気情報工学科	廣田敦志	木3	3	木3	3・4	2	E 系
6	EJA	電気電子工学実験 I E廣田	通年授業	RR	電気情報工学科	廣田敦志	火4	4	火4	3・4	2	
7	EJA	電気電子工学実験 II E廣田	通年授業	RR	電気情報工学科	廣田敦志	金5	5	5			
8	EJA	コンピュータ基礎 E佐村	通年授業	RR 実験・実習・演習支援	電気情報工学科	佐村敏治	月1	1	1		1	指定せず
9	EJA	電気回路 I E大向	通年授業	RR 実験・実習・演習支援	電気情報工学科	大向雅人	火1	1	1		1	
10	EJA	電気情報工学実験 II E 大向	後期授業	RS 実験・実習・演習支援	電気情報工学科	大向雅人			木3	3・4	1	
11	EJA	電気情報工学実験基礎 E 楢本		#N/A 実験・実習・演習支援	電気情報工学科	楢本博久					1	E 系
12	EJB	太陽光発電 E堤	長期(3月以上)	LL その他	電気情報工学科	堤 保雄					1	E 系
13	EJB	進路資料整理 E濱田	長期(3月以上)	LL 進路資料	電気情報工学科	濱田幸弘					2	
14	EJB	実験用設備維持管理 E廣田	間 歇	SO 学科学設備の整備	電気情報工学科	廣田敦志						
15	EJB	情報基礎演習室管理 E濱田	長期(3月以上)	LL その他	電気情報工学科	濱田幸弘					2	
16	EJB	学科学設備・備品管理 E濱田	長期(3月以上)	LL 学科学設備の整備	電気情報工学科	濱田幸弘					2	
16	EJB	電気学会関西支部講演会支援	短期(1週以内)	SS その他	電気情報工学科	濱田幸弘					2	
18	EJC	オープンキャンパス E濱田	短期(1週以内)	SS オープンキャンパス	電気情報工学科	濱田幸弘					2	
19	EJC	トライやるウィーク E濱田	短期(1月以内)	MS トライやるウィーク	電気情報工学科	濱田幸弘					2	
20	EJC	公開講座・情報系 E濱田	短期(1週以内)	SS 公開講座	電気情報工学科	濱田幸弘					2	
21	EJC	公開講座・電気電子系 E濱田	短期(1週以内)	SS 公開講座	電気情報工学科	濱田幸弘					2	
22	EJA	卒研支援 E大向	長期(3月以上)	LL その他	電気情報工学科	大向雅人					1	
23	EJA	薬品管理 E大向	長期(3月以上)	LL その他	電気情報工学科	大向雅人					1	
24	EJA	PC管理全般 E大向	間 歇	SO その他	電気情報工学科	大向雅人					1	
25	ClA	工学実験 I C檀	通年授業	RR 実験・実習・演習支援	都市システム工学科	檀 和秀	3	3	3		2	C 系
26	ClA	工学実験 III C檀	前期授業	RF 実験・実習・演習支援	都市システム工学科	檀 和秀	水5	5			4	M 系
27	ClA	工学演習 C檀	後期授業	RS 実験・実習・演習支援	都市システム工学科	檀 和秀			月4	4	2	C 系
28	ClA	コンピュータ設計 C檀	通年授業	RR 実験・実習・演習支援	都市システム工学科	檀 和秀	火3	3	3			
29	ClA	創発ゼミナール C檀	後期授業	RS 実験・実習・演習支援	都市システム工学科	檀 和秀			水S1	1・2		
30	ClA	工学実験 III C檀	前期授業	RF 実験・実習・演習支援	都市システム工学科	檀 和秀	水5	5				
31	ClC	公開講座 C檀	前期授業	RF 公開講座 その他	都市システム工学科	檀 和秀						
32	ClC	オープンキャンパス C檀	短期(1週以内)	SS オープンキャンパス	都市システム工学科	檀 和秀						
33	ClC	トライやるウィーク C檀	短期(1週以内)	SS トライやるウィーク	都市システム工学科	檀 和秀						
34	ClB	卒研・特別研究支援 C檀	通年授業	RR 実験・実習・演習支援	都市システム工学科	檀 和秀						
35	ClB	学科学支援業務 C檀	通年授業	RR 実験・実習・演習支援製作支援・製作	都市システム工学科	檀 和秀						
36	ClB	講演会支援 C檀	短期(1週以内)	SS その他	都市システム工学科	檀 和秀						
37	ArA	建築工学実験 A田坂		実験・実習・演習支援	建築学科	田坂誠一					2	
38	ArA	鉄筋コンクリート構造 A田坂		実験・実習・演習支援	建築学科	田坂誠一					2	
39	ArA	建築ゼミナール A田坂		実験・実習・演習支援	建築学科	田坂誠一					2	
40	ArA	図学 I A中川	通年授業	RR 実験・実習・演習支援	建築学科	中川 肇	水3	3	3		2	A 系
41	ArA	建築学演習 A水島	前期授業	RF 実験・実習・演習支援	建築学科	水島あかね	月5	5				
42	ArA	情報基礎 II A水島	後期授業	RS 実験・実習・演習支援	建築学科	水島あかね			2			
43	ArC	プレロボコン実施支援 A八木	短期(1週以内)	SS その他会場設営・運営支援	建築学科	八木 雅夫					4	
44	ArC	ロボコンフィールド製作支援 A八木	長期(1月以上)	ML 製作支援・製作依頼	建築学科	八木 雅夫					4	
45	ArC	ロボコン製作支援 A八木	長期(3月以上)	LL 製作支援・製作依頼	建築学科	八木 雅夫					4	M 系
46	ArC	文化祭音響設備支援 A八木	短期(1週以内)	SS 文化 祭会場設営・運営支援	建築学科	八木 雅夫					2	
47	ArC	球技大会・遊藝訓練音響設備支援	短期(1週以内)	SS その他会場設営・運営支援	建築学科	八木 雅夫					2	
48	ArA	卒研支援(実験) A中川	通年授業	RR	建築学科	中川 肇	5	5	5		2	A 系
49	ArA	卒研支援(発表) A中川			建築学科	中川 肇					2	A 系
50	GaA	生化学 G倉光	後期授業	RS 実験・実習・演習支援	一般科目	倉光 利江			水5	2	3	指定せず
51	GaA	実験(重力加速度) G武内	後期授業	RS 実験・実習・演習支援	一般科目	武内将洋			1		1	指定せず
52	GaA	実験(比熱) G武内		実験・実習・演習支援	一般科目	武内将洋					1	指定せず
53	JiC	クラス写真作成 学生課	短期(1週以内)	SS その他その他	学生課	仲 茂也						指定せず
54	JiC	トライやるウィーク	短期(1週以内)	SS	学生課	仲 茂也						
55	JiC	オープンキャンパス	短期(1月以内)	MS	学生課	仲 茂也						
56	JiC	入試懇談会	短期(1週以内)	SS	学生課	仲 茂也						
57	JiC	学校説明会	短期(1週以内)	SS	学生課	仲 茂也						
58	JiC	入学試験(推薦選抜)	短期(1週以内)	SS	学生課	仲 茂也						
59	JiC	入学試験(学力検査)	短期(1週以内)	SS	学生課	仲 茂也						
60	JiC	親子ロボット教室 研究広報		親子ロボット教室	総務課	黒田 純子					4	

年間申請総数 73 件 (平成 22 年度)

(出典 技術教育支援センター資料)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

- ・外国人の専任教員を採用し、英語によるコミュニケーション能力や国際性の向上を積極的に図っている。
- ・実践的な教育を推進するため、教育経験や企業経験を重視した教員採用を実施している。
- ・教員の自己評価、相互評価、学生による教員評価、授業アンケートなど、教員の教育研究活動に関する多面的な評価活動を組織的に行い、教員組織の活性化を図っている。
- ・学生課、総務課教育研究プロジェクト支援室、技術教育支援センターを設置し、教員・学生の諸活動を的確に支援できるように、人員を配置している。

### (改善を要する点)

該当なし

## (3) 基準3の自己評価の概要

一般科目及び各専門科目では、豊かな教養と感性を育てるとともに、科学技術の進歩に対応した専門の知識・技術を教授するため、教員が高等専門学校設置基準に基づいて適切に配置されている。

専攻科は学位規則に基づき大学評価・学位授与機構の認定を受けており、授業科目担当教員が適切に配置され、より高度で実践的な技術者を育成している。非常勤教員は、経歴や年齢に係る採用基準を満たしており、教育の目標を達成するために必要な専門分野を考慮して配置されている。

教員の年齢構成は、各学科ともいずれの年齢層にも偏りなく、バランスよく構成されている。一般科における女性教員は、相応な任用数と職位分布となっている。専門学科では女性教員が少ないものの近年は徐々に増加している。また、英語担当および専門学科において外国人専任教員を採用し、国際性の向上に努めている。

教員の採用は公募制で、教員選考規則に従って教員選考委員会を開催し、年齢、専門分野、各種経歴等を考慮した適切な採用がなされている。特に、実践的な教育を実現するため、教育経験や企業経験を重視した選考が行われている。採用や昇格に当たっては、教員選考規則に手続きが定められ、教員の自己評価を含む個人調書及び面接等により選考が行われている。

教育研究活動評価等委員会規程に基づき、教員の自己評価、相互評価、学生による教員評価が実施されている。これらの評価結果は、本校の教員表彰にも反映されている。また、学生の授業アンケートを定期的実施し、この結果を学内に開示している。

教育課程を遂行するための教育支援は、学生課、総務課教育研究プロジェクト支援室及び技術教育支援センターによって組織化されている。学生課には、教務係、学生係、寮務係および図書係があり、授業、成績、履修、入試関係、課外活動、及び学生に対する援助等の教育支援業務を的確に実施するために、業務内容に基づく適切な人数の職員配置を行っている。技術職員は技術教育支援センターに配属され、各学科等からの業務申請に基づいて各々の専門性を考慮した適切な人員配置を行い、学生の実験・実習支援や技術相談に応じている。